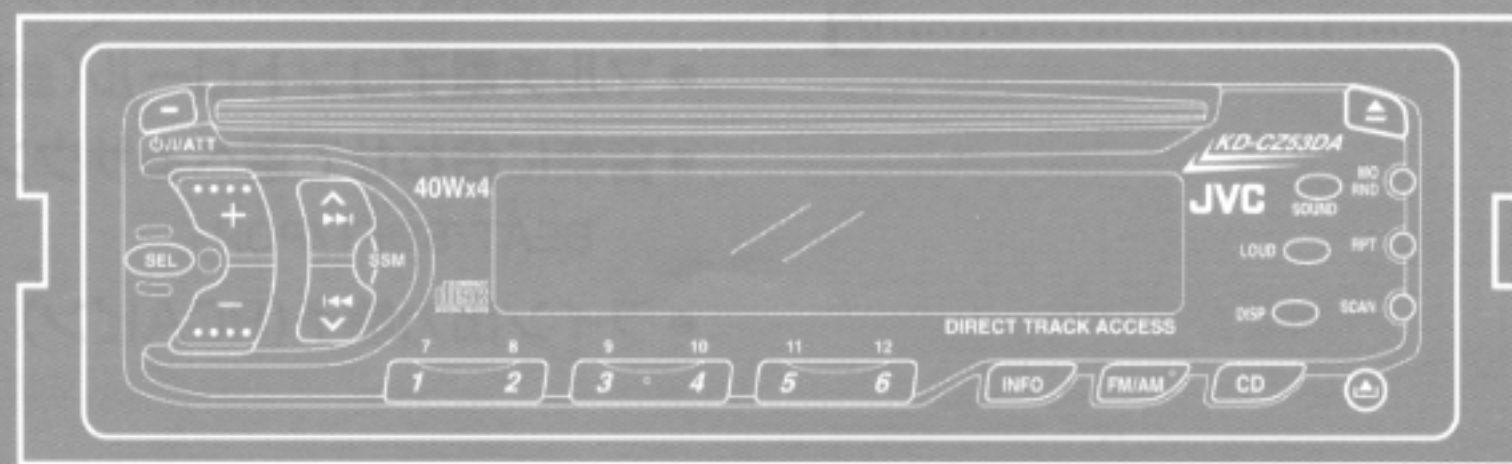


JVC

KD-CZ53DA

CDレシーバー



— お買い上げありがとうございます —

ご使用の前にこの「取扱説明書」と「取付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

目次

- 主な特長…………… 2
- 安全上のご注意…………… 3
- 各部の名前と働き…………… 8～11
- 音量・音質の調節…………… 12～13
- 時計の合わせかた…………… 14
- コントロールパネルの着脱…………… 15
- CDを聞く…………… 16～18
- ラジオを聞く…………… 19～22
- 正しくお使いいただくために…………… 23
- こんなときは…………… 24
- 保証書とアフターサービス…………… 25
- 主な仕様…………… 26
- お手入れ…………… 27

主な特長

- 直接CDが出し入れできるCDプレーヤー
 - ・ダイレクト選曲
 - ・ランダム演奏/リピート演奏
 - ・8センチCD対応(アダプターなしでダイレクトイン)
- 高音質1ビットDAC(D/Aコンバーター)
- ダイレクトファンクション切替
 - ・ラジオやCDの演奏がワンタッチでスタート(電源を入れることも可能)
- 40W×4ハイパワーアンプ内蔵
 - ストロングステーションメモリー
- SSM搭載チューナー
 - ・FM放送に限りSSMによる放送局のメモリーが可能
 - ・24局プリセット(FM⇒6局×2、AM⇒6局×2)
 - ・アンテナリモート機能
 - インフォメーション
 - ・交通情報が聞けるINFOボタン
- マルチ電子コントロール(音量・音質)
- 音楽に合わせて選べるサウンドコントロール
 - ビート ソフト ホップ
 - ・BEAT/SOFT/POP
- ライン出力端子(RCAピン)

安全上のご注意

—はじめにお読みください—

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。
絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、障害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号



一般的注意



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

行為を指示する記号



一般的指示

安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

警告

■本機はDC12V^{マイナス}マイナスアース車専用です。



・大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。

■配線作業中は、バッテリーの⊖端子を外してください。



・ショート事故による感電やけが、火災の原因となります。

■本機を、前方の視界を妨げる場所やステアリング、シフトレバー、ブレーキペダル等の運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取付けしないでください。



・交通事故やけがの原因となります。

■車体に穴を開けて取付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。



・交通事故や火災の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用して本機を取付ける場合は、ステアリング、ブレーキ系統、またはタンクなどの保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・これらを使用しますと制動不能や発火の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用してアース線を接続するときは、ステアリングやブレーキ系統等の保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・事故の原因となります。

警告

- コード類は、取付説明書または取扱説明書の指示に従い、運転操作の妨げとならないよう、まとめておくなどしてください。



・ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

- 電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。



・リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

- 本機を分解したり、改造しないでください。



分解禁止

・事故・火災・感電の原因となります。

- 自動車を運転中に音量調節等の操作をしないでください。



・このような操作は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。



・事故・火災・感電の原因となります。

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズをご使用ください。



・規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

- 万一、異物が入った・水がかかった・煙が出る・変な匂いがするなど異常が起きましたら、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。



・そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

注意

■本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。

- ・安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。



■必ず付属の部品を指定通り使用してください。

- ・指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして事故やけがの原因となることがあります。



■雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取付は避けてください。

- ・本機に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火の原因となることがあります。



■振動の多いところなど、しっかりと固定できないところへの取付は避けてください。

- ・外れて事故やけがの原因となることがあります。



■本機の通風孔や放熱板をふさがないでください。

- ・通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



■本機を不安定なところに取付けないでください。

- ・正しい設置を行わないと、事故や故障の原因となることがあります。



■正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

- ・接続が終わったら車のブレーキランプ、ホーンなどが正常に動作することを確認してください。



■車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないよう注意してください。

- ・断線やショートにより、事故・感電・火災の原因となることがあります。



⚠ 注意

■運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご利用ください。



・車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

■本機を車載用として以外は使用しないでください。



・感電やけがの原因となることがあります。

■ディスク挿入口に異物を入れないでください。



・火災や感電の原因となることがあります。

■ディスク挿入口に手や指を入れないでください。

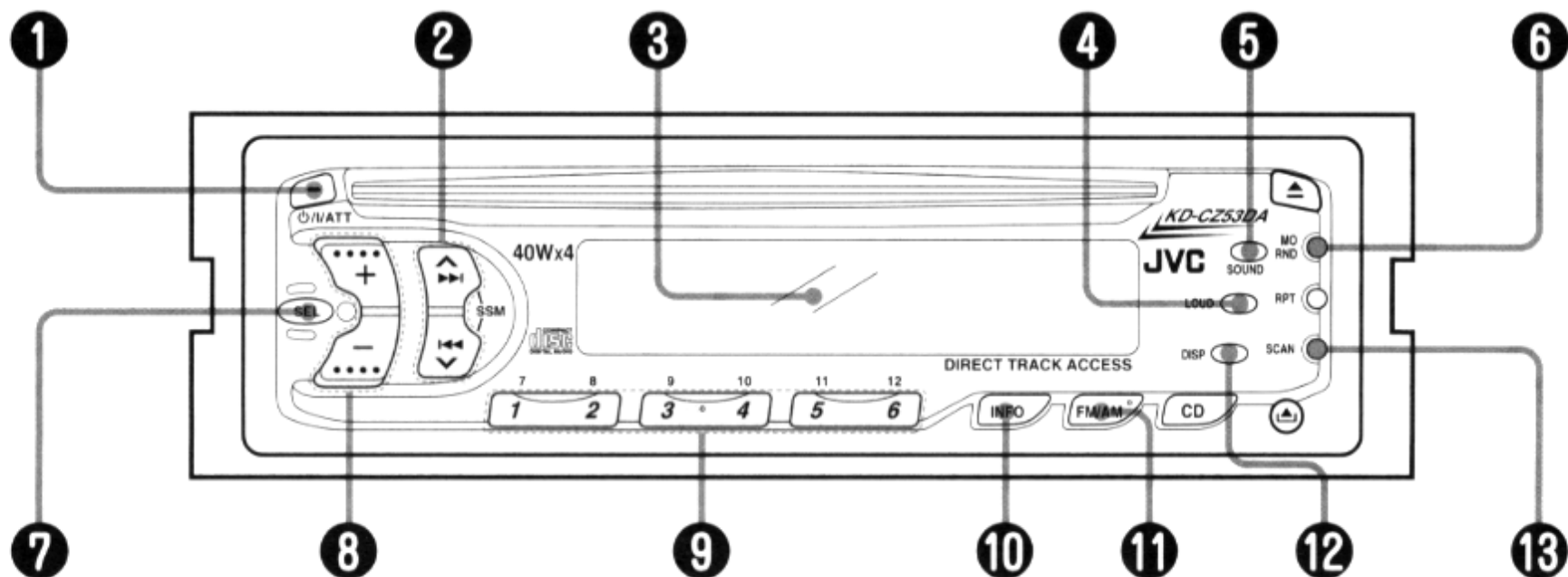


・けがの原因となることがあります。

指をはさまれないよう注意

各部の名前と働き(1)

— 共通部分およびラジオを聞くときの働きです。 —



1 電源(電源)/ATTボタン

アッテネーター

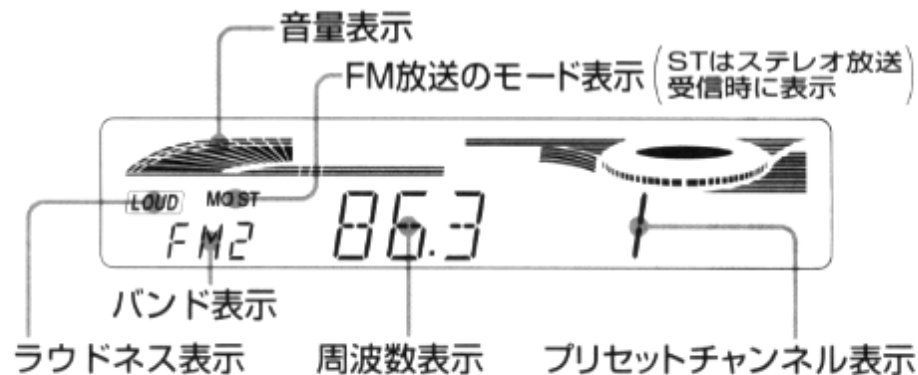
電源の「オン」↔「オフ」に使います。→12ページ参照
「ボン」と押すと音量を一時的に下げることができます。

2 選局ボタン(∨、∧)/SSMボタン

ストロング
ステーションメモリー

放送局を選局するとき使います。→19ページ参照
FM放送のとき∨と∧ボタンを3秒以上同時に押すと、電波状態の良い放送局を、自動的にプリセットボタンにメモリーすることができます(SSM)。→20ページ参照

3 表示窓(ラジオのとき)



4 ラウドネス LOUDボタン

小音量時の低音・高音を増強するとき使います。
→13ページ参照

5 サウンド SOUNDボタン

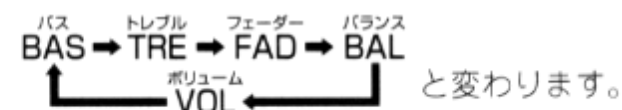
聞きたい音楽に合わせて選びます。→13ページ参照

6 モノラル MOボタン

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき使います。
→20ページ参照

7 セレクト SELボタン

音量・音質調節のモードが選べます。押すごとに



2秒以上押すと時計合わせができます。→14ページ参照

8 +、- (アップ/ダウン) ボタン

電子ボリュームのレベルが調節できます。→12ページ参照

9 プリセットボタン(1 2 ~ 5 6)

放送局をメモリー(記憶)したり、メモリーした放送局を聞くとき使います。FM、AMともバンドごとに6局ずつメモリーできます。→20ページ参照

10 インフォメーション INFOボタン

道路交通情報(AM1,620kHz)を聞くとき使います。
電源「切」から操作することもできます。→22ページ参照

11 FM/AMボタン

ファンクションを「ラジオ」にしたり、FMとAMの聞きたいバンドを選ぶとき使います。→19ページ参照
電源を入れることもできます。
押すごとにFM1→FM2→AM1→AM2…と順に変わります。

12 ディスプレイ DISPボタン

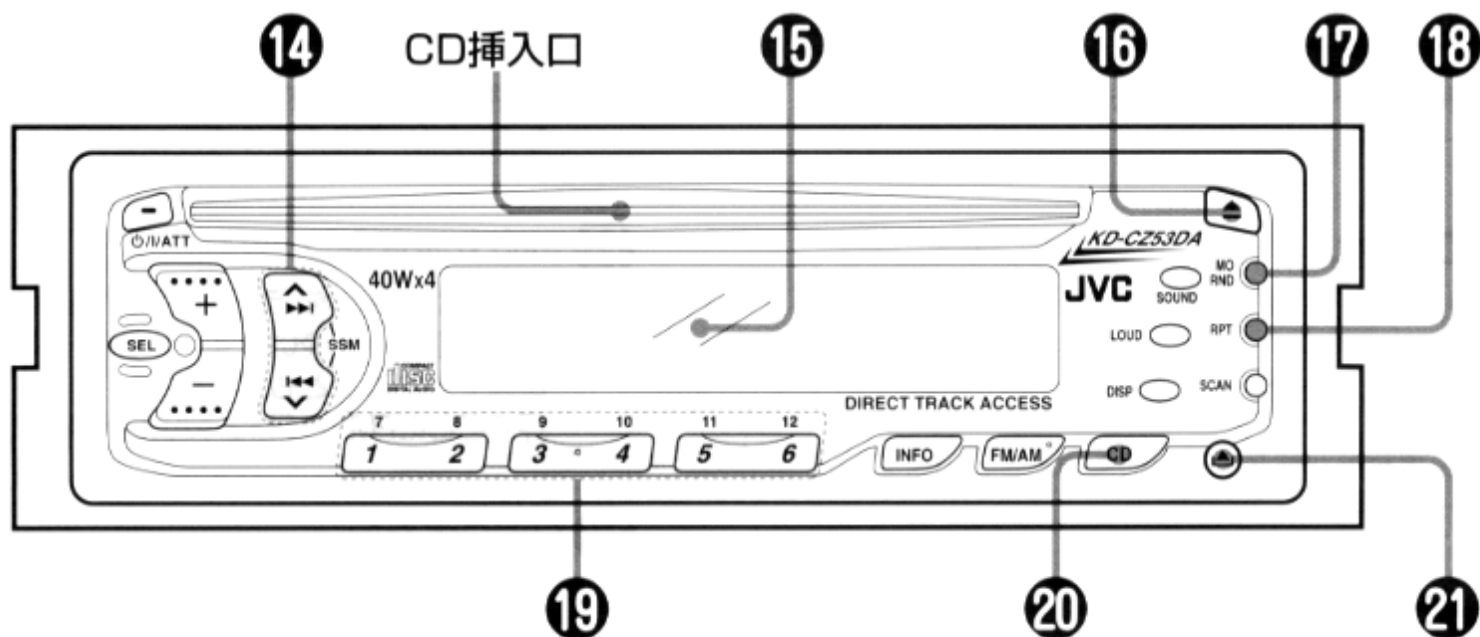
表示窓の表示を変えるとき使います。
押すごとに次のように変わります。
・「CD」のとき : 時刻表示 ↔ 演奏時間の表示
・「ラジオ」のとき : 時刻表示 ↔ 周波数表示
電源「切」のとき押すと、5秒間現在時刻を表示します。

13 スキャン SCANボタン

放送局を探すとき使います。スキャン選局になります。
→21ページ参照

各部の名前と働き(2)

— CDを聞くときの働きです。—

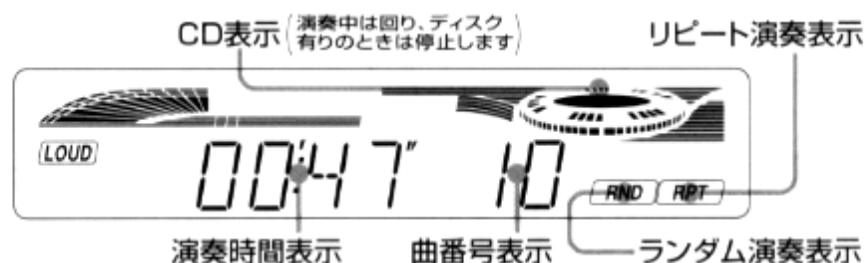


〈お知らせ〉

- 本機にCDが入っていないときは、ファンクションが「CD」にはなりません。NO DISCノー ディスクが表示されます。
- 文字のある面にdiscディスクのマークが入っている、JIS規格に合ったCDをお使いください。

14 |◀◀、▶▶| (スキップ/サーチ) ボタン

曲の頭出しや早送り、早戻しに使用します。→ **18** ページ参照

15 表示窓 (CD のとき)**16** ▲ (ディスク取出し) ボタン

CDを取り出すとき使用します。もう一度押すと中に引き込まれ演奏がスタートします。→ **16** ページ参照

17 ^{ランダム} RND ボタン

CDに収録されている順番に関係なくランダム(無作為)に聞くことができます。(ランダム演奏) → **17** ページ参照

18 ^{リピート} RPT ボタン

曲をくり返して聞くことができます。(リピート演奏)
→ **17** ページ参照

19 曲番号ボタン ($\overbrace{1 \quad 2}^{7 \quad 8}$ ~ $\overbrace{5 \quad 6}^{11 \quad 12}$)

聞きたい曲を選ぶとき使用します。→ **17** ページ参照

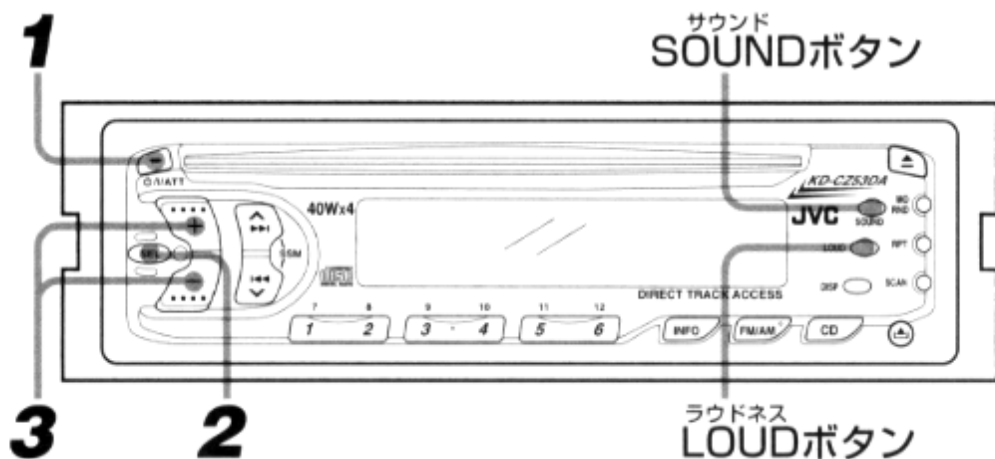
20 CD ボタン

ファンクションを「CD」にするとき使用します。
電源を入れることもできます。

21 コントロールパネル取り外しボタン (▲)

コントロールパネルを外すとき押します。→ **15** ページ参照

音量・音質の調節



一口メモ

- 調節したレベルはメモリー（記憶）されます。電源を切っても次に電源を入れたときは、電源を切る前のレベルが表示されます。
- フェーダー調節は4スピーカー接続のときのみ調節してください。

1 電源（電源）を押して電源を入れる



- ・電源を切るときは、1秒以上押します。（電源オフ）
- ・「ボン」と押したときは、^{アッテネーター}ATTになり音量が一時的に下げられます。ATT表示が点滅します。

2 SELで調節したいモードを選ぶ



- ・押すごとに表示窓は

BAS → TRE → FAD → BAL
 ↑ VOL ↓

と変わります。ただしVOL（音量）調節のみの場合、この操作は、必要ありません。直接+、-ボタンで調節できます。

3 +または-で調節する



VOL (音量)	音量が下がる	音量が上がる
BAS (低音)	低音が減衰する	低音が強調される
TRE (高音)	高音が減衰する	高音が強調される
FAD (フェーダー)	フロント出力が下がる	リア出力が下がる
BAL (バランス)	右チャンネルの音量が下がる	左チャンネルの音量が下がる

● 初期設定状態と調節範囲

	初期設定	調節範囲
VOL(音量)	15	00~50
BASS(バス)	00(フラット)	-6~+6
TRE(トレブル)	00(フラット)	-6~+6
FAD(フェーダー)	00(センター)	リア R 6 ~ フロント F 6
BAL(バランス)	00(センター)	レフト L 6 ~ ライト R 6

・調節が終わってから5秒後に、表示窓は前の表示に戻ります。

● ラウドネスコントロールについて



・押すことに「オン↔オフ」になります。

お買い上げ時は、ラウドネス「オン」で表示窓に**LOUD**が表示されます。小音量時の低音、高音が増強され聞きやすくなります。

ラウドネス「オン」

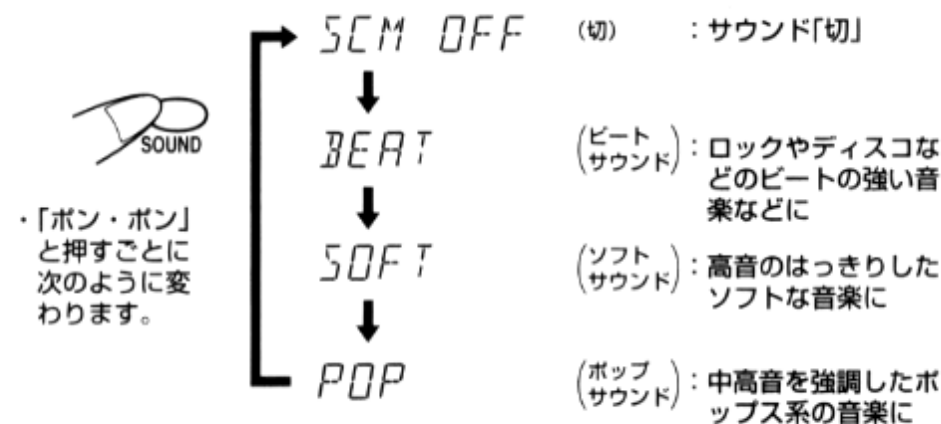


ラウドネス「オフ」



SOUNDボタンの使いかた

サウンドコントロールメモリーを使ってお聞きになる音楽に合わせて音質が自由に選べます。

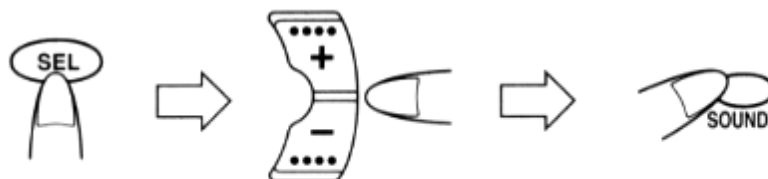


● SOUNDボタンのメモリー内容を変えるには

ビート、ソフトおよびポップサウンドは音質が調節できます。ラウドネスの「オン/オフ」も一緒にメモリーできます。

例：ビートサウンドの調節

SOUNDボタンを押して「BEAT」にしてから…



・BASSまたはTREを選ぶ。

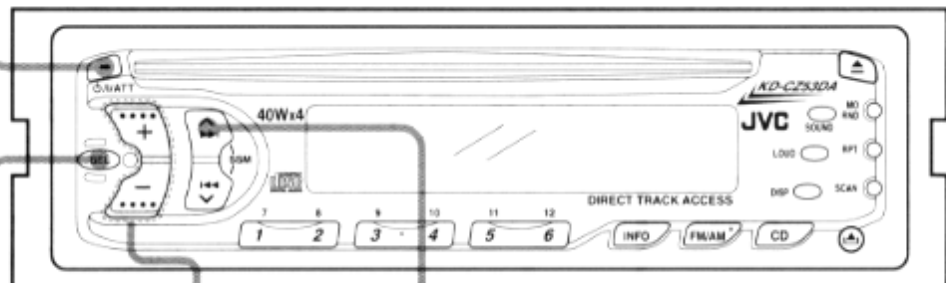
・音質を調節する。
(LOUD表示はメモリーのとき消えますが記憶されます)

・「BEAT」表示が点滅するまで(2秒以上)押す。

時計の合わせかた

— 本機に内蔵の時計を現在時刻に合わせておきます。 —

1



2

3-1・3-3 3-2

1 電源を押して電源を入れる



・電源を切る前のファンクションが表示されます。
(お買い上げ時はFM1 76.0MHzが表示されます)

2 SELを2秒以上押して「CLOCK H」を表示させる



・2秒以上押す。



CLOCK H

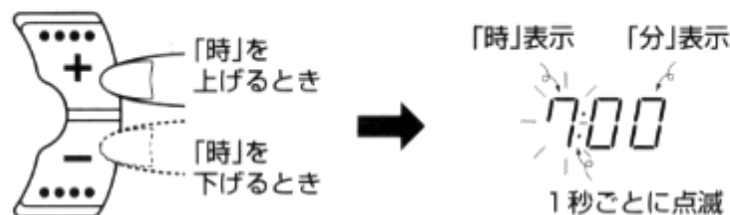
・「CLOCK H」以外の表示が出たときは、▶▶ボタンを「ボン」と押して選びます。

3 +または-で現在時刻に合わせる (時刻表示点滅中に+、-ボタンを押します)

・「時」を合わせるには(12時間表示方式です)

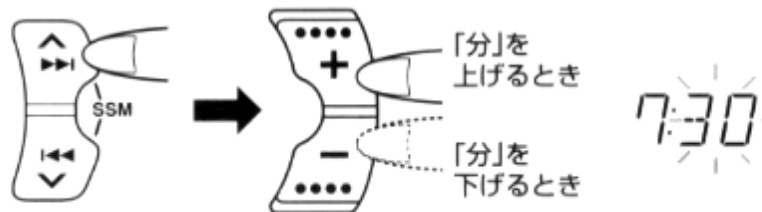
例：7時30分に合わせるとき

「時」表示点滅中に(「CLOCK H」表示にしたあと…)



(3-1)

・「分」を合わせるには



「CLOCK M」にしてから…

(3-2)

(3-3)

・+または-ボタンを押し続けると速く進んだり戻ります。

・時刻合わせが終わったあと、15秒で自動的に元のファンクション表示に戻ります。すぐに戻りたいときはSELボタンを「ボン」と押します。
・バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給がとぎれると、時刻の設定は取り消されます。このようなときは、もう一度時刻合わせをしてください。

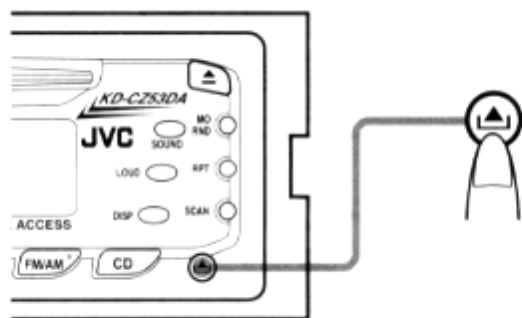
コントロールパネルの着脱

コントロールパネルを外すには

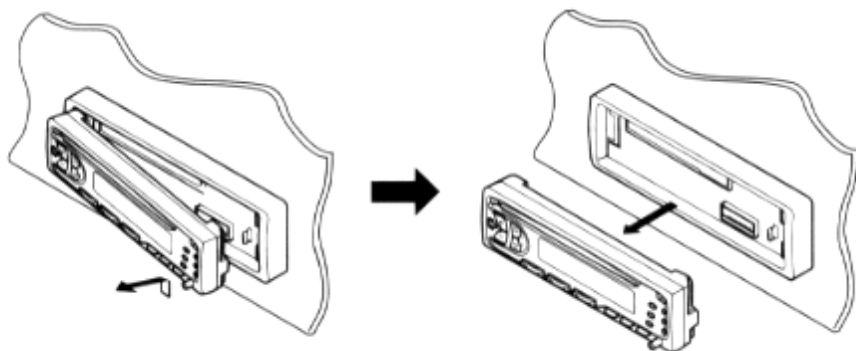
- ① 電源(電源)を押して電源を切る



- ② コントロールパネル取り出し(▲)を押す

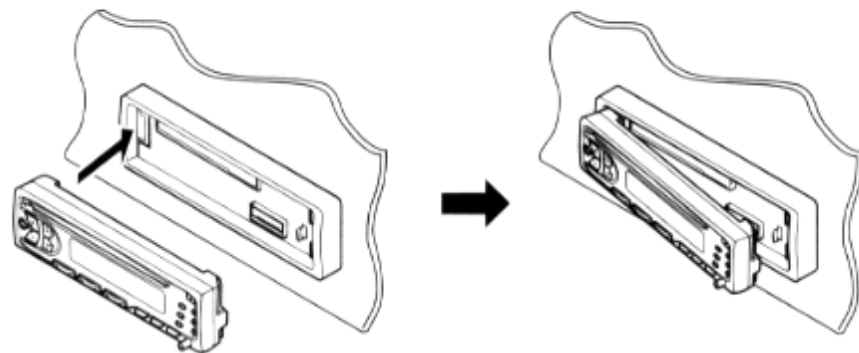


- ③ 前に押し出されたコントロールパネルを外す

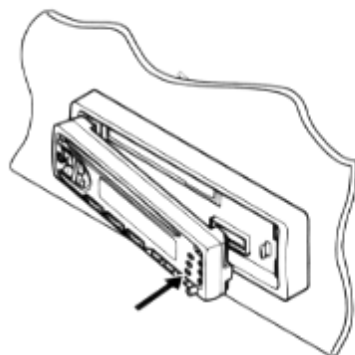


外したコントロールパネルを元に戻すには

- ① コントロールパネルの左側を本体に合わせて入れる



- ② コントロールパネルの右側を「カチッ」と音がするまで押す



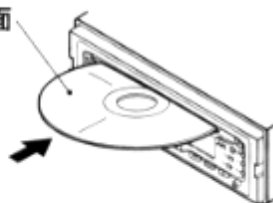
CDを聞く

— 番号順に操作します。 —

全部の曲の演奏(自動的にくり返し演奏になります)

1 CDを入れる→電源が入ります(曲数と演奏時間が表示され演奏スタート)

文字のある面
を上にする

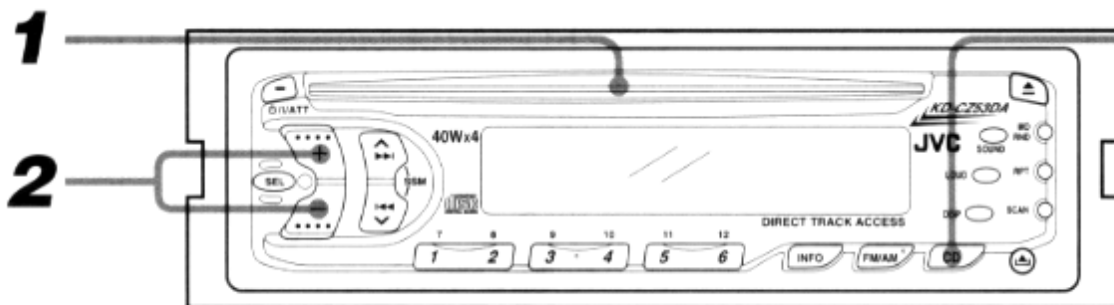
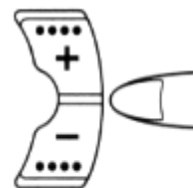


- ・ 8センチCDは、挿入口の中央からそのまま入れてください。
- ・ CD演奏中に電源を切ったときは、電源を入れると自動的に演奏が始まります。



軽く押し込むと自動的に中に引き込まれます。

2 +または-で音量を調節する

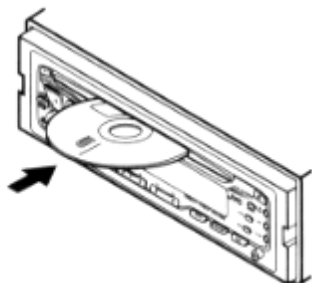


CDボタン

電源を入れることができます。ただし、CDを入れる前に押しすと「NO DISC」が表示されファンクションは切り換わりません。

● 8センチCDの入れかた

8センチCDは、挿入口の中央からそのまま軽く押し入れて入ります。



● CDを入れると…

ファンクションは、自動的にCDのモードに変わり、演奏がスタートします。ラジオなどの音は出なくなります。

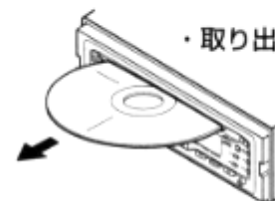
CDを取り出すには(電源「切」のときも操作できます)



- ・ ▲(ディスク取出し) ボタンを押します。



- ・ 「EJECT」が表示されCDが出てきます。

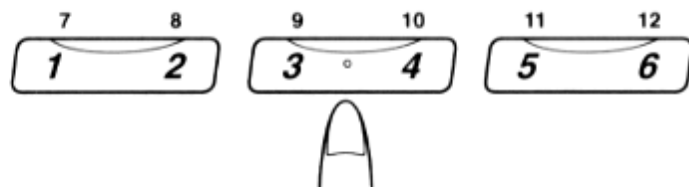


- ・ 取り出します。

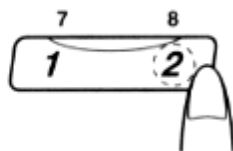
(取らずにそのままにしておくと、15秒後に自動的に中に引き込まれます)

ダイレクト演奏

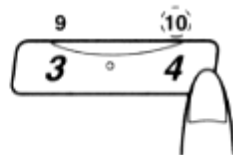
演奏中に聞きたい曲に合わせて曲番号ボタンを押すと、すぐその曲に移り演奏がスタートします。



- ・ 1～6曲目を聞くときは：ボタンに表示された番号を目安にボタンを「ポン」と押します。
例：2曲目のとき



- ・ 7～12曲目を聞くときは：ボタン上部のパネル面に表示された番号を目安にボタンを1秒以上押します。
例：10曲目のとき



- ・ 13曲目以上は、演奏中に▶▶ボタンを「ポン」と押しスキップ演奏(➡18ページ)させ聞きたい曲を選びます。

1曲リピート演奏(くり返し演奏)

演奏中の曲だけをくり返して聞くことができます。



もう一度押すと、解除されます。

9曲目 リピート演奏表示

ランダム演奏

演奏中のCDを、収録してある順に関係なくランダム(無作為)に聞くことができます。



もう一度押すと、解除されます。

ランダム演奏表示

〈お知らせ〉

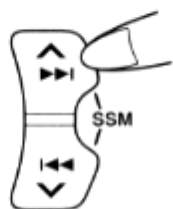
●音量調節について

CDの演奏は、無音状態での雑音がほとんどありません。気づかずに大きめの音量に調節すると、思わぬ大きな音が出てスピーカーを破損する恐れがあります。電源を切る前に音量を下げておき、演奏がスタートしてから適度な音量に合わせてください。

CDを聞く(つづき)

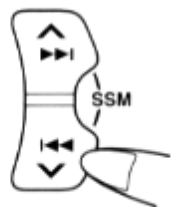
スキップ演奏(曲の頭出し)

- 演奏中に次の曲を聞くには…



・「ポン」と1回押すごとに次の曲次の曲へと移り、頭から演奏が始まります。

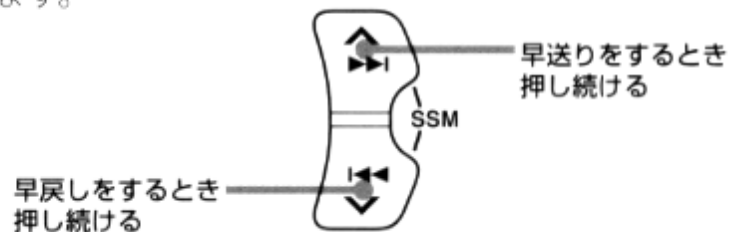
- 演奏中の前の曲を聞くには…



・「ポン」と1回押すと今演奏中の曲の頭に戻ります。もう1回押すと前の曲の頭に戻り、演奏が始まります。

サーチ演奏(早送り・早戻し)

- ・演奏中のCDの好みの位置を探すときは、早送り・早戻しの機能を使います。

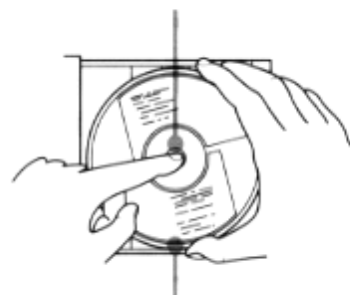


サーチ速度は始めゆっくり、押し続けると速くなります。このとき演奏音は通常の1/4程度の大きさで聞こえます。指を離すとふつうの演奏に戻ります。

お願い

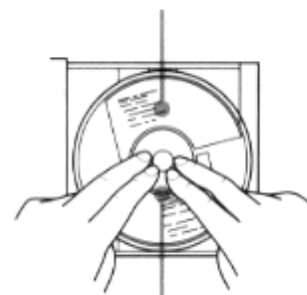
- CDを保管するときは
専用のケースに入れ、直射日光の当たる所、ダッシュボードの上などは避けて保管してください。
- ケースからの出し入れ

センターホルダーを押さえ…



演奏面(虹色に光っている面)に触れないように持って出す。

文字のある面を上にして…



上から押さえて入れる。

- ラベル面に紙を張ったり字を書いたりしないでください。
- CDは曲げないでください。



- ハートや花などの形をしたシェイプCD(特殊形状のCD)は、絶対に使用しないでください。シェイプCDを入れると、故障の原因となります。
- 8センチCD用のアダプターは、使用しないでください。故障の原因となります。

ラジオを聞く

— 番号順に操作します。 —

マニュアル選局

……電波の弱い放送局を受信したり、聞きたい放送局の周波数が分かっているときなどに使います。
本機は、FMステレオ放送とAMモノラル放送に対応しております。(AM放送をステレオで聞くことはできません)

1 FM/AMを押す → 電源が入り、ファンクションが「ラジオ」になります



・電源が入ると自動的に前の放送局を受信できます。



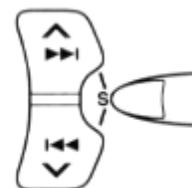
・表示窓にバンドと周波数が表示されます。
周波数表示は、5秒後に時刻表示に変わります。

2 FM/AMでバンドを選ぶ

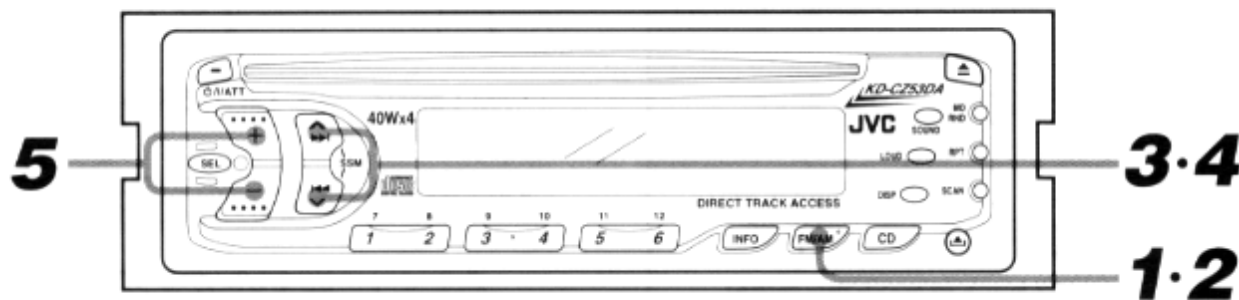


・押すごとに
FM1 → FM2
↑
AM2 ← AM1
↓
と変わります。

3 へまたは∨を1秒以上押す



・表示窓に“M”が表示され、マニュアル選局のモードになります。

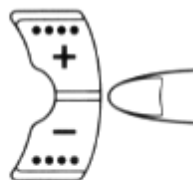


4 へまたは∨で放送局に合わせる



・1回押すとFMは0.1MHz、AMは9kHzずつ移動し、押し続けると連続して変わります。

5 +または-で音量を調節する



・マニュアル選局のモードは…

選局の操作から5秒後に、マニュアル選局のモードは自動的に解除されます。→シーク選局(20ページ参照)のモードになります。

ご注意

・交通安全のため、運転中は本機を操作しないでください。必ず停車時に操作してください。

ラジオを聞く(つづき) — 番号順に操作します。 —

プリセット選局

本機はPLLシンセサイザーに電子選局と、周波数を記憶しておくメモリー回路が内蔵されていますので、いったんメモリーしておけばあとはプリセットボタンを押すだけで正確な受信ができます。

- 操作例：FM放送の81.3MHzにある局をプリセットボタン $\square 1$ にメモリーするには…

1 FM/AMで「FM1」を選ぶ

→ FM 1

2 へまたは▽で希望の放送局に合わせる

3 プリセットボタンの「 $\square 1$ 」を2秒以上押す



81.3



プリセットボタンと同じ数字が点滅するとメモリーされます。

- ・バンドごとに6局ずつメモリーできますので、上記の操作例を参考にお好きな順序でプリセットボタンにメモリーしてください。AM放送の場合でも同じ手順でメモリーできます。

ご注意

- バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給がとぎれるとメモリーした局や時刻の設定は、すべて取り消されます。このようなときはもう一度メモリー操作と、時刻合わせをしてください。

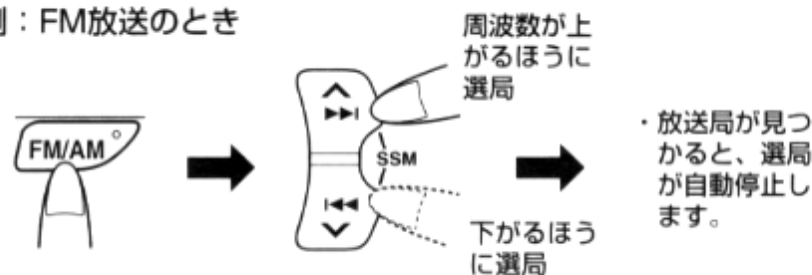
シーク選局(自動選局)

「M」が表示窓に表示されていないときは、 \wedge または ∇ の選局ボタンを「ポン」と押すだけでチューナーが自動的に放送局を探してくれます。

これをシーク選局(自動選局)といいます。

希望する放送局の周波数を正確に覚えていないときなどにお使いください。

例：FM放送のとき



・ FM 1 または FM 2 を選ぶ。

「ポン」と押して離す。

モノラルMOボタンの使いかた



FMステレオ放送受信時に電波状態が悪くて雑音が多いとき、このボタンで切替えます。表示窓に「MO」が表示されモノラル受信モードになり、聞きやすくなります。

電波状態が良好になったら「ST」表示に戻してお使いください。

FMステレオ表示

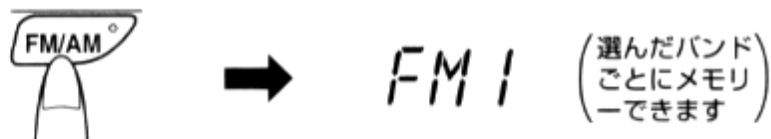


SSM(ストロングステーションメモリー)の使いかた

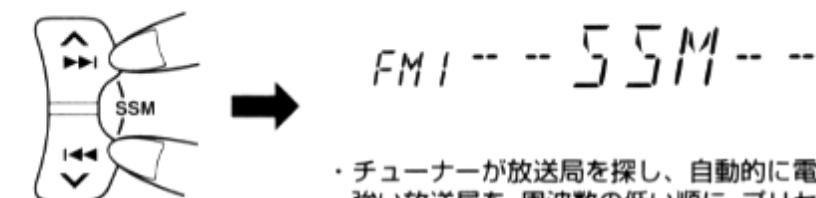
チューナーが自動的に電波の強いFM放送の放送局を、周波数の低い順に6局までメモリーしてくれます。(AM放送はできません)
旅行先などで放送局を探すときに便利です。

●操作例：FM1にメモリーするとき

1 FM/AMを押してバンドを選ぶ



2 へと∨を同時に2秒以上押す



同時に2秒以上押す。

・チューナーが放送局を探し、自動的に電波の強い放送局を、周波数の低い順に、プリセットボタンの(1)~(6)にメモリーしていきます。(前のメモリー内容は取り消されます)

3 放送局が6局メモリーされるとプリセット1の表示になります

・プリセットボタン(1)~(6)を押して聞きたい放送局を選びます。(放送局が6局より少ないときは、前のメモリー内容が残ります)

アンテナリモートについて

電動アンテナ装備車およびアンテナブースター装備車の場合は、**オートアンテナ**コードを車両側の対応する端子(オートアンテナ)に接続してください。ファンクションを“ラジオ”のモードにすると自動的にアンテナ(ブースター)側に電源が供給されます。“CD”にファンクションを切換えると、自動的にアンテナ側への電源が切れます。

(**オートアンテナ**の最大コントロール電流は250mAです)

オートアンテナコードを接続しても、コントロール電流が過大で放送の受信がうまくできないときは、**リモート出力**に接続し直してください。

この場合、どのモードでもアンテナ(ブースター)側に電源が供給されます。

スキャン選局



SCANボタンを押すと、自動的に周波数が高い方に移動して放送局を探します。放送を受信するごとに表示の周波数が点滅し、約5秒間モニターしていきます。聞きたい放送局のところでもう一度、SCANボタンを押すとスキャン選局が停止し、その放送を継続して聞くことができます。

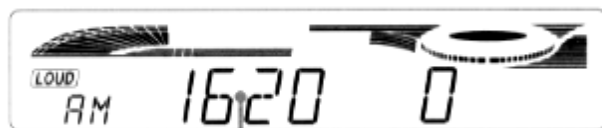
ラジオを聞く(つづき) — 番号順に操作します。—

道路交通情報を聞く(INFOモード)



高速道路などの特定地域では、1,620kHzで道路交通情報を聞くことができます。

聞きたいところで**INFO**ボタンを押すと、ファンクションに関係なく1,620kHzが受信できます。電源「切」から操作することもできます。



5秒後に時刻表示に変わります。

- このモードのときはボリュームが独立しており、交通情報を聞く場合にのみ音量を上げることができます。もう一度押すと元のファンクションに戻り、音量も元に戻ります。なお別の放送局を受信してから**INFO**ボタンを2秒以上押すと、新たにメモリーし直すことができます。もう一度**INFO**ボタンを押すと、元のファンクションに戻ります。

正しくお使いいただくために

●本機はDC12V、マイナスアース車専用です。大型バスなどの24V車には使用できません。

●スピーカーはアンプの出力(フロント/リア40W)に対し、入力に十分余裕のあるもの、インピーダンス4～8Ωのものをお使いください。

●次のような場所は避けて取り付けてください。

- ・直射日光の当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける所など、温度が極端に高くなる場所
- ・雨が吹き込む所や水がかかったり、湿気の多い所
- ・ほこりの多い所

●安全運転のために…

- ・運転中は車外の音が聞こえる程度の音量に調節してお楽しみください。また操作は、必ず安全な場所に停車させてから行ってください。
- ・ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなりません。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

●車内の温度は…

真夏の炎天下や冬期低温下で長時間駐車した後に、CDを聞くときは、車内が常温に近くなるまでお待ちください。

●バッテリーの過放電を防ぐため、エンジン停止中やアイドリング中は、大きな音量で長時間使用しないでください。

●結露(つゆつき)について

次のような場合、本機のレンズなどが結露してCDが正常に演奏できないことがあります。

- ・エアコンを入れた直後
- ・湿気が多いとき

電源を入れたまま約1～2時間待ってからお使いください。

●外国での使用は…

本機は日本国内用です。外国での使用はできません。

●スピーカーコードの接続について

本機はBTL*回路方式を採用していますので、スピーカーの接続は必ずこの取付説明書の通りにしてください。

既設のスピーカーコードを利用するとき、左右のスピーカーコードの⊖側が車の金属部に接続されていたり、⊖側同士が接続されていると故障の原因になります。

*BTL : バランスド Balanced トランスフォーマーレス Transformerlessの略

2組のパワーアンプを互いに逆相で駆動し、比較的低い電圧で高出力が得られる回路方式のことです。

●ヒューズの交換について

本機のヒューズは10A(アンペア)です。交換してもすぐ切れるときは、お買い上げの販売店にご相談ください

また、10Aを超えるヒューズは絶対に使用しないでください。



ヒューズ(10A)

こんなときは

— CDレシーバーの具合が悪いとき「故障かな?」と思ったら… —

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
どのボタンを押しても正しく動作しない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ ⏻/⏻ (電源)ボタンと SEL ボタンを同時に2秒以上押し続けてリセットする。 (時計や放送局などのメモリーが取り消され、初期状態に戻ります)
▲(ディスク取出し)ボタンを押してもCDの取り出しができない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ SEL ボタンを押しながら ⏻/⏻ (電源)ボタンを押す。その後再び▲(ディスク取出し)ボタンを押す。
演奏が始まらない。	・ CDが裏返しに入っている。 (NO DISCが表示されます)	・ 文字のある面が上になるように正しく入れる。
	・ CDが汚れている。	・ 柔らかい乾いた布で演奏面を清掃する。
AM放送がうまく受信できない。	・ オートアンテナのコントロール電流が250mAを超えている。	・ リモート出力 コードをオートアンテナに接続するように変更する。
	・ オートアンテナ コードが接続されていない。	・ オートアンテナ コードを接続する。

保証書とアフターサービス

●保証書の記載内容ご確認と保存について

この製品には、保証書が添付されております。

保証書はお買い上げの販売店でお渡ししますので、所定事項の記入、および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げの販売店が修理致します。

その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料にて修理させていただきます。

●補修用性能部品の保有期間について

当社はこのカーステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低6年保有しています。

この期間は通産省の指導によるものです。

●アフターサービスについてのお問い合わせ先

ご転居、ご贈答、その他アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げの販売店、または添付の「サービス窓口案内」をご覧ください。最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

1. まずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、再度お調べください。
2. それでも具合の悪いときは、お買い上げの販売店に次のことをお知らせください。

・ JVC CDレシーバー：KD-CZ53DA

・ お名前とおところ

・ 電話番号

・ 故障の状態(詳しく)：例 CDの演奏音が出ない。

●次のような症状のときは…

- ・ CDを入れたときLOAD表示のままで演奏が始まらない。
- ・ ▲ボタンを押してもEJECT表示のままでCDが出てこない。



このようなときは…

⓪(電源)ボタンと▲ボタンを同時に2秒以上押してください。
CDが出てきます(このときCDを落とさないようにしてください)。
それでも直らないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

主な仕様

●本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

CDプレーヤー部

- 型 式：コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
- 信号読み取り方式：非接触光学式読み取り
(半導体レーザー、 $\lambda=780\text{nm}$ 使用)
- エラー訂正方式：クロスインターリーブリードソロモンコード
- チャンネル数：2チャンネル
- 周波数特性：5 Hz～20kHz
- ダイナミックレンジ：96dB
- S N 比：99dB
- ワウ・フラッター：測定限界以下

オーディオアンプ部

- 最大出力：フロント/リア 40W+40W(4 Ω 、1kHz)
- 定格出力：フロント/リア 16W+16W(40Hz～
20kHz、0.8%T.H.D)
- 適合インピーダンス：4 Ω (4 Ω ～8 Ω で使用可能)
- 出力端子：RCA端子(1系統)、1.5V/1k Ω
スピーカーコード(2系統、ギボシ型)

チューナー部

- アンテナ端子：外部FM/AM兼用アンテナコネクター×1
オートアンテナコントロール電源コード付
- FMチューナー部
 - 受信周波数：76.0～90.0MHz
 - 実用感度：11.3dBf(1.0 μ V/75 Ω)
 - チャンネルセパレーション：30dB(1kHz)
- AMチューナー部
 - 受信周波数：522～1,629kHz
 - 実用感度：20 μ V(26dB μ)

電源部・その他

- 電源電圧：DC14.4V(11～16Vで使用可能)
マイナスアース車用
- 時刻表示：12時間表示法
- 外形寸法：幅178×高さ50×奥行167mm
- 質量：約1.3kg(付属品含まず)

付属品

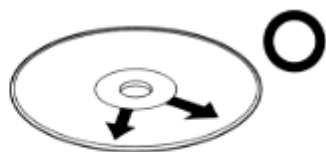
- ・接続コード(16ピンコネクター)…………… 1
- ・ネジ(M5×6mm)…………… 4
- ・皿ネジ(M5×6mm)…………… 4
- ・化粧プレート…………… 1

お手入れ

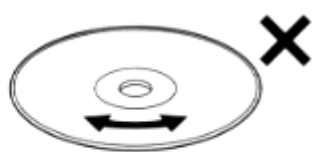
CD(コンパクトディスク)のお手入れ

本機に入れる前に、演奏面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布でふきとってください。

必ず内側から外側にふいてください。



必ず内側から外側へ



連続したキズは音飛びの原因になります。

- シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーなどは絶対に使用しないでください。

本機の清掃

パネル面が汚れたら柔らかい布などで**からぶき**してください。汚れがひどいときは水で布をしめらすが、中性洗剤を少し布につけてふき、あとは**からぶき**してください。

ご注意

- シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。



製造元



お問い合わせ先

モバイルエレクトロニクス事業部

〒371-8543 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1

☎ ダイヤルイン(027)254-8926

発売元



カーエレクトロニクス商品部

〒108-8307 東京都港区三田3-13-16

(三田43森ビル)

☎ (03)3454-0942